

NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報
第100号(2017.1.1)
発行 竹田幸男



第1号 東映京都撮影所撮影会 2009.5.15



第7号 忘年会 2009.12.11



第11号 大原撮影会 2010.4.2



第23号 平野郷撮影会
がんど平野屋敷前にて 2011.3.9

会報第100号を迎えて

会長 竹田幸男

会報NVC Monthlyは今回第100号を迎えることになりました。思えば平成21年(2009年)6月12日に第1号を発行してから8年5か月の道のりです。もっとも、同好会の発足は平成14年(2002年)6月ですから、約7

年間は会報なしで活動していたこととなります。

当寝屋川映像同好会はパナソニック松愛会寝屋川支部の同好会として発足しましたが、今のところ全国の松愛会に映像の同好会はないようで、唯一の存在であると思われます。きっかけは平成13年、当時の片井支部長から、寝屋川支部の1年間の活動状況を撮影してほしいと要望され、その当時のビデオ映像に興味のある人々が集まって撮影隊を結成し、翌年の支部総会で完成映像を映写しました。その後、せっかくの機会だから、と当時撮影に従事した人々が集まって同好会を立ち上げたのが寝屋川映像同好会の始まりです。

大きな転機は、平成23年4月に、当時の寝屋川市映像協会とともに新たな寝屋川市映像協会を結成したことです。これにより寝屋川映像フェスティバルへの参加、大阪アマチュア映像祭への参加等、発表の機会も舞台も大きく広がり、また多くの同好の人たちとの交流の機会も増え、腕を磨く機会も増えました。

映像の趣味は、単に個人の趣味だけに止まらず、その技能を生かしていろいろな団体や地域の活動を記録し、PRするためにも役立つ生涯の趣味であると思います。この趣味は撮影、編集には芸術的な感性と技術的なスキルが求められます。また撮影して回るためには体力的な鍛錬も求められます。まさに全知全能力を鍛えられる希少な趣味であろうと思います。

寝屋川映像同好会では、作品に作者の思いを込めることを求めています。たとえば旅行で撮ってきた映像も、ただ映像が映っているだけでは、単なる記録映像ですが、そこに撮った人の思いが込められていたら優れた映像作品になります。映像に、どのように思いを込めるか、それが腕の見せ所だろうと思います。その人の人生が、そこににじみ出てくるのだろうと思います。同好会の活動を進めることで会員の皆様が映像の腕を磨きながら豊かな人生を過ごせるお手伝いが出来ればよいと思っています。

例会の窓

■平成29年10月例会

日時：10月11日（水）13：30～

場所：市民活動センター4F こども部屋

出席者：新井 佐伯 妹尾 竹田 谷 田淵

欠席者：2名（50音順・敬称略）

例会次第

1. 報告・連絡・協議事項

(1) 大阪アマチュア映像祭 11/5に実施

(2) 今年の第2回撮影会

日時：11月16日に決定 撮影会プロジェクトで東福寺を中心に検討中。

10：30現地集合 撮影→13：30分まで。

その後、京都五条 半兵衛麩（昼食）

(3) 第11回寝屋川映像フェスティバルは来年5月13日（日）

- ・10分以内の作品。
- ・今回からは著作権規制 今年中に出品作完成を。各自の予定は。

(4) プレミア研究会

- ・8/3(木) 12:00~子供室で第3回を実施した。次回は3名でいつ？

(5) 文化連盟理事会の報告(新井理事) 詳細略

(6) 市民文化祭 映像 11月3日(総合センター) 9時30分集合。

- ・1回目10:45開始 2回目13:30開始予定

(7) 会報はもうすぐ100号、会報随想100号記念 各人400字以内。(今月中に)。2002年に同好会が発足したが、会報は2009年6月から2017年11月で100号に。

(8) 今年の映像協会忘年会 12月17日(日) 9:30合同例会後忘年会

(9) 映像同好会の新年昼食会は1月、場所は？

3. 映写・研究発表

3. 1 会員持参作品の映写

(1) 佐伯さん 「節子の日記より」 京都鴨川 植物園 5分

- ・音楽も良く合っている。手ぶれもなくうまく撮影されている。

(2) 新井さん 「はすの成長記録」 8分

- ・2017年4月1日から10月まで毎月撮影された。
- ・はすの実ができるまでの撮影作品。AM3時頃では暗いため懐中電灯で照らしながら撮影した。雨対策もされ努力された作品。

(3) 新井さん「成田山 プロジェクションマッピング」 15分

- ・成田山で学生たちがプロジェクションマッピングを実験していたものを撮影した作品。

(4) 谷さん 「金剛山 野鳥&野草作品」 6分20秒

- ・ナレーションはよかった。野鳥から野草に変わるところに、もう少し変化を入れてみては。

(5) 妹尾さん 「別子銅山」 産業近代化の先駆者の足跡を訪ねて

- ・マインドピア別子の撮影記録。施設の内容を詳細に撮影されています。説明の文字を見る時間が不足。ナレーションが是非ほしい内容です。

(6) 竹田さん 「立山黒部 アルペンルート」 9分56秒

- ・タイトル、BGMの入れ方、ナレーションの間、緩急などいろいろな面で、編集の参考にしていただけたら良い。

4. 各会員の最近の活動状況・情報交換・当面する問題点等(省略)



会報100号に寄せて

ファインダーを覗く人生

新井正直

私の趣味は、映画と写真で、映画は戦時中の5歳頃から、国立病院の前に家があり、入院患者(結核に成った兵隊)のため年一回の慰問として16ミリ映写機で、上映されたニュースやドラマを観た。本格的に観たのは、高校生からで、三本100円映画館で、西部劇等でした。

写真は、中学生時に日光写真から始まり、高校生で16ミリフィルムのオモチャのカメラを購入し、卒業旅行などで撮影し、写真屋で名刺版の印画紙に焼ましをして、楽しんでいました。

松下電器に就職して、35ミリカメラを購入し、京都の三千院や宇治周辺を撮影していました。

カメラから8ミリに変更したのは、結婚を機に、購入し、子供の成長を記録していたが、フィルムが高いため、VHSビデオカメラを購入し、白黒からカラーへ、デジタルビデオカメラへと移り、同時に、ビデオ同好会に入り、視写体をあまり観察せず、ファインダー(小さい窓)から覗いて撮り、編集・映写時に画像を観る約50年間で、また、録画したDVD映画と共に映像を楽しむ、私です。

発刊100号を迎えて

天野忠一

会報NVC Monthly 100号達成 おめでとうございます。しかも発行は毎月であり、これは凄いこと、みんなで喜びあいたいものです。

ところで、会報の中に随想(当初は実験レポート)というコーナーがありますが、100号の中で当方はどんな事を書いたのだろうかと振り返ってみましたところ、内容の薄いものばかりですが14回書いている事になります。

内容は別として個人的には随想だからこれもよし、と納得しているところです。

会報100号を迎えてうれしい反面、当方は、ここ数年いろいろ事情があって、撮影・編集が随分遠い存在になってしまいました。再度皆さんと一緒に活動が出来るのか、そして皆さんのレベルに追いつくことが出来るのか少し不安ですが、今しばらく時間をいただき以前の私に戻るべく頑張りたいと思いますのでよろしくお願い致します。

最後になりますが、めでたく100号を迎える事ができましたのも、毎月の会報の発行において、内容・編集・校正・発行日等々との関係に多大な時間を費やしていただいている竹田会長に厚く御礼を申し上げます。

私は、ノンリニア編集が可能になるまでは、無編集でも見応えのある映像作りに腐心していました。一方で、編集のさわりを書物で手探りしていました。

そんな折、幸いにも寝屋川映像同好会の存在を知り、快く受け入れて頂いて、竹田会長、会員皆様のご指導により成長させて頂きました。

同好会入会後は、技術向上の為に、積極的に撮影をするよう心がけて来ました。来阪した孫、高校の同窓会、会社の同期三人との旅行、近江・オオムラサキを守る会の専属撮影を請け負うなどです。「オオムラサキを守る会」の活動記録などは、お渡しする枚数が60枚、150枚などと大量ですが、作品作り向上の投資費用と考え無償で対応しています。

まだまだ腕前未熟の私ですが、同好会の会員皆様のご指導をいただきながら、腕を磨き生涯の趣味として楽しみたいと思っています。会員の皆様よろしくお願ひいたします。

・・・機関誌100号によせて一私の映像遍歴・・・ 佐伯節子

今から6年前、平成23年に初めて出席した松愛会のパーティー会場で、ハンサムな竹田さんに声をかけられたことが映像同好会に入ったなれそめである。

カメラ歴は長い。42年前、娘が生まれたときに月賦で買い、子供の成長記録はもちろんのこと、会社の行事には必ずカメラを持参するカメラ小僧だった。ビデオは、16年前に孫が生まれた時にパナソニック製を、今度はキャッシュで購入。

撮ることは楽しかったが撮りっぱなしだった。竹田さんの「撮った映像を編集しませんか？編集のお手伝いをします」という言葉にうかうか乗ってしまった。入ってみると、頭の上を宇宙語が飛び交う世界だった。今もパソコンとの戦いの真っ最中でアル。

こんな私を、手取り足取り教えてくださる先輩諸氏皆様どうぞ見捨てないでください。これからも映像同好会が発展しますように・・・

随想：100号に寄せて

妹尾哲男

寝屋川映像同好会に2016年入会の2年生会員として、「NVC Monthly」の100号に寄稿させて頂けることは大変光栄です。同好会活動が15年の永きにわたり継続し、時機を得たテーマについての解説「AVCメモ」が連載される格調高い「NVC Monthly」が発刊100号を迎えられることは誠に稀有なことと、その快挙に心からの賛辞を贈ります。これ偏に卓越したリーダーのもと、技を磨き成長を希求される会員の皆さんが築かれた伝統の賜物と考えます。

松下入社以来の友人（故）竹下功さんのお誘いで入会を決めましたが、入会直前に竹下さんが急逝され、残念なことに同好会でご一緒することは叶いませんでした。半世紀にわたり親しく交遊してきた竹下さんを偲びつつ、会長を始めメンバーの皆さんの指導と支援を頂きながら、私自身のビデオ撮影・編集の技を磨き、「旅行記

録」から「ビデオ作品」作りへと変身したいと願っております。

100号記念

谷 弘子

8ミリで撮影したテープやDVDがあるので編集したいと思っていたら寝屋川映像同好会があるのを知り入会させて頂きました。当時女性はひとりで、パソコンも詳しくなく不安でした。「何か質問は？」と言われても何を質問していいかわかりませんでした。

同好会の竹田会長と天野さんに何度もメールで質問すると丁寧に教えて頂き少しずつ覚える事ができました。BGMを入れてはじめて作品ができた時は、嬉しくて感動したのを覚えています。今まで続けてこられたのも会長はじめ会員さんのおかげだと本当に感謝しています。

私が、楽しんでいるビデオ作品は、主に家族旅行、ハイキング、孫の成長記録等です。発表会での作品作りは、難しく今でも思うようにできませんが、これからも勉強をしていきたいと思えます。

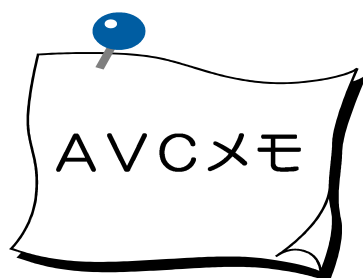
100号記念随想

田淵健二

私が映像同好会の「世話役」を伊藤地区委員から引き継いでから約15年が経過、先輩の吉田さんから「会計」を引き継いで、13年になりますが、現役時代から①仕事楽しく ②その人の持ち味を活かすことを“モットー”に頑張ってきました。

残念ながら、「ビデオ作品」を1本も作らなかったが孫達・各会の世話役でビデオ撮影すること多く撮り続けた。特に孫の記録撮影はその日の内にDVDにダビングして渡すことを続けた。どちらかと云えば「静止画」記録が多いが、今後もビデオ撮りは続けたいと思っている。

今回素晴らしい中村地区委員にお逢いし、永年続けた「お世話役」「会計」をそして私に出来なかった「ビデオ作品」づくりに頑張ってもらえたらと期待してます。15年間ありがとうございました！



手振れ補正機能付き編集ソフト現わる

(第1号掲載記事の復刻)

竹田幸男

ビデオの手持ち撮影の時に画面が揺れるのが悩みの種でした。もちろん今のビデオカメラには「手振れ防止装置」は付いていますが、その能力を超えた大きなカメラの揺れは補正できません。

画面の揺れは、特に風景映像では鑑賞を妨げる大きな阻害要因になります。ところが最近、この問題を解決する編集ソフトが現れました。トムソン・カノーブス社

のエディウス・プロ5というソフトに組み込まれ、最近その下位ソフトのエディウスネオ2にも搭載されたモーションスタビライズフィルタ「Mer call i」というソフトがそれです。

原理等は発表されていませんが、ビデオカメラの手ぶれ補正から類推してみます。ビデオカメラの初期の「電子式」手ぶれ防止装置では、映像を取り込むCCDの存在する全範囲を図の外側の実線で示します。CCDの存在する範囲のうち、周辺部を除いた点線の内部だけから映像を取り込むようにします。

そして、たとえば右図のように画面の中に複数の点(図では4点)A、B、C、Dを決め、この4点の映像がどの

ように動くのかを観察しています。4点の映像が一齐に同じ方向Eに向かって動くと、それはカメラが反対のF方向に動いたものと判断し、映像を取り込む範囲を一点鎖線で囲まれた範囲となるようにE方向にスライドさせます。うまくいけばこれでF方向へのカメラの揺れが無かったように撮影されます。

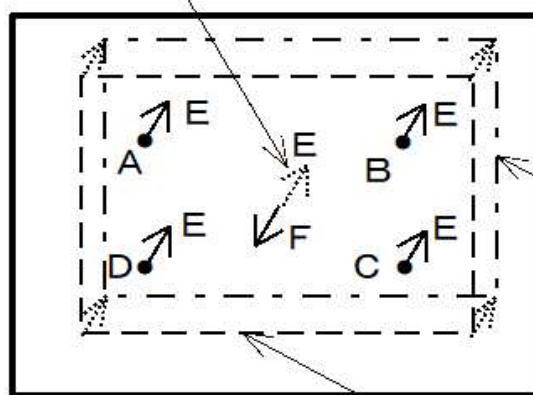
4点のうち一部(たとえば1点か2点)の映像だけが動いたことがわかったとき、カメラは、カメラが揺れたのではなく撮影している相手が動いたものと判断して取り込み範囲のスライドは行いません。これはビデオカメラでの例ですが、編集時のソフトによる補正もこのような方法で行われているものと考えられます。

ついでですが、この電子式は、今は安いランクのビデオカメラに使われ、高級品には光学式が使われます。カメラの揺れを加速度センサーで感知し、補正はレンズ系の一部を動かして行います。光学式はズーム中にも補正が行われ、電子式はズーム中には効果がないと言われています。理由は上の説明から考えてみてください。

このように編集ソフトでの手振れ補正は、撮影が済んだ後で効く素晴らしい機能ですが、手放して喜んではられません。というのは、補正のために撮影した画面の周辺が切り取られて撮影範囲が狭くなるのです。そうして残った画面を拡大して使うため、映像が荒くなります。つまり解像度が低くなるのです。揺れっばなしの撮影をして、このソフトの世話ばかりになると、解像度の低下した作品になってしまいます。できるだけこのソフトのお世話にならないようにカメラの構えをしっかりする、三脚を使う等の努力をして、どうしてもこの場面は生かしてやりたい、と言うところだけに使うように考えたいものです。 ■

注：上記の記事では電子式手ぶれ補正は安いランクのビデオカメラで使われ、高級品には光学式手ぶれ補正が使われる、と書きましたが、現在は1台のカメラに両方の補正を組み合わせるものがあります。なお記載当時のトムソン・カノーブス株式会社は、その後グラスバレー株式会社となって現在に至っています。

映像取り込み範囲スライド方向



CCDの全範囲 映像取り込み範囲